

令和5年度全国学力・学習状況調査

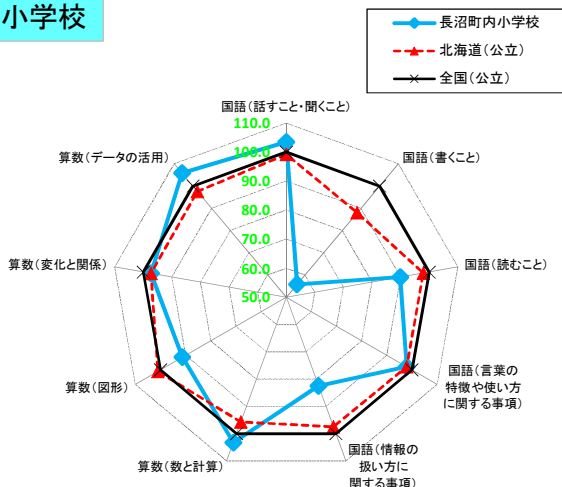
■長沼町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：87人）（中学校数：1校、生徒数：71人）

【教科全体の状況】

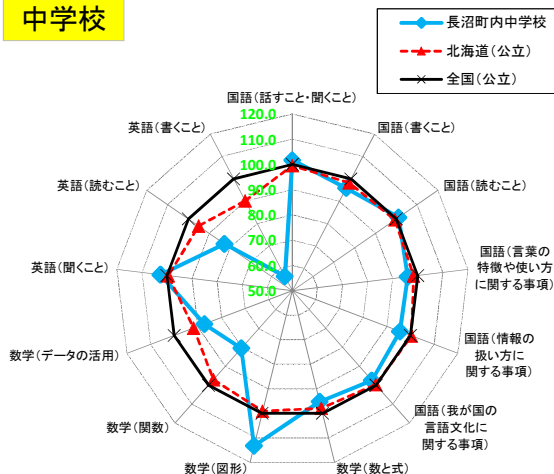
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	69
算数・数学	62	47
英語	-	40

小学校

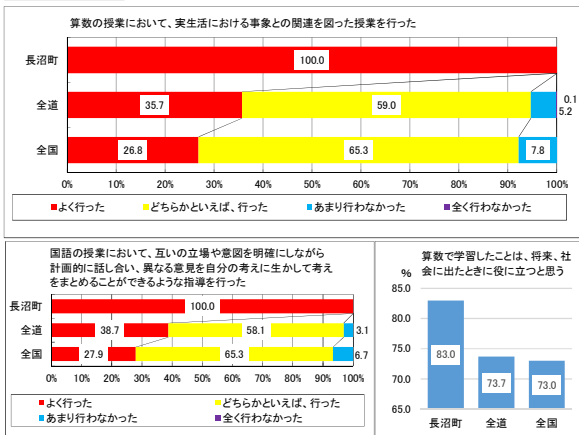


中学校

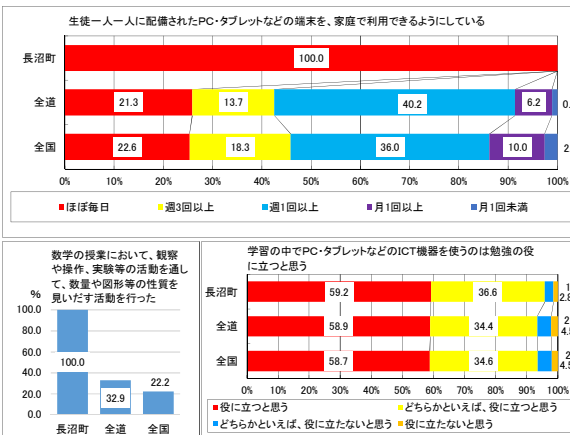


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導をよく行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、算数で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭でほぼ毎日利用できるようなにしたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育推進会議による9年間の見通しをもった教育活動全体のカリキュラムの充実や効果的な利活用の検討など、小・中学校が協働した授業改善の推進
- ◎ 教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
- ◎ AI教材などの学習アプリを用いたICT活用の充実(授業及び端末持ち帰りによる家庭学習での効果的な利活用の推進)
- ◎ 学習支援員やALTの配置及び検定料の助成などによる子どもたちの学びを支える教育の推進